

6 歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻で学んでいること —臨床技工, プロ講座, インターンシップから—

○岡部竜雄, 市川 匠, 上杉 諒, 宇賀神雪乃, 榎並拓也, 町屋 祐, 横田憲幸
明倫短期大学 歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻1年

keywords : 臨床技工, プロ講座, インターンシップ

はじめに

専攻科に入学してからこれまで, 附属歯科診療所の患者さんに対して歯科補綴装置を製作した臨床技工実習, 各分野の第一人者である臨床教授から直接指導を受けた臨床技工プロ講座, 沖歯科工業におけるインターンシップなど, 本科の教育プログラムにはない多くのことを経験した。

そこで今回は, 1年生7名がそれぞれに感じ, 学んだことを報告する。

報告

臨床技工実習: 教員のていねいな指導のもと, 私たちが製作した歯科技工物がどのような調整を経て患者さんの口腔内で機能しているのかを, 診療に立ちあうことで実感した。また, 指定された日までに歯科技工物を正確に仕上げるというチーム歯科医療の一員としての責任も感じた。(図1)

臨床技工プロ講座: 模型やデジタル画像から読み取れる生体情報を臨床技工に活かすための方法を学んだ。さらには学術的な根拠に基づき歯科補綴装置を製作することの重要性を理解することができた。これら, 一つ一つの教えが臨床技工実習に役立った。(図2)

インターンシップ: 私たちの先輩である歯科技工士とコミュニケーションをとりながら実務を経験することで, 社会人としてのマナーや現場の雰囲気を知ることができた。また, ワックスアップやワイヤー屈曲, 人工歯配列において正確で効率のよい作業を見学し, 現時点における私たちの技工技術のレベルを客観的に知ることができた。

まとめ

社会で活躍できる歯科技工士になるために, 専攻科での臨床技工や, プロ講座, インターンシップなどを経験できる恵まれた環境を活かしながら, 残りの一年間でさらなる技工技術の向上を目指したいと考えている。



図1 製作した装置をチェアサイドで説明する



図2 デジタル画像のPC活用法を学ぶ

(指導教員: 飛田 滋, 丸山 満)